

● ● ● | 国際拠点空港等における国際航空貨物の輸出入
に係る競争実態調査

第2回政府規制等と競争政策に関する研究会



2009年2月17日

成田国際空港株式会社



会社概要

会社名	成田国際空港株式会社
代表者	代表取締役社長 森中小三郎
本店所在地	千葉県成田市古込字古込1番地1
設立年月日	2004年4月1日
資本金額	1,000億円
従業員数	730人(2008年7月1日現在)
株主構成	国土交通大臣 90.01% 財務大臣 9.99%

※新東京国際空港公団(1966年7月30日～
2004年3月31日)から事業を承継。
空港公団は、政府特殊法人として独立採算制
により空港の建設及び管理を行う。

<これまでの歩み>

- ◆1978年 5月 新東京国際空港開港
- ◆1983年 8月 航空燃料パイプライン供用
- ◆1992年12月 第2旅客ターミナルビル供用
- ◆2002年 4月 暫定平行滑走路供用
- ◆2004年 4月 成田国際空港株式会社設立
- ◆2007年 6月 第1旅客ターミナルビル改修完了

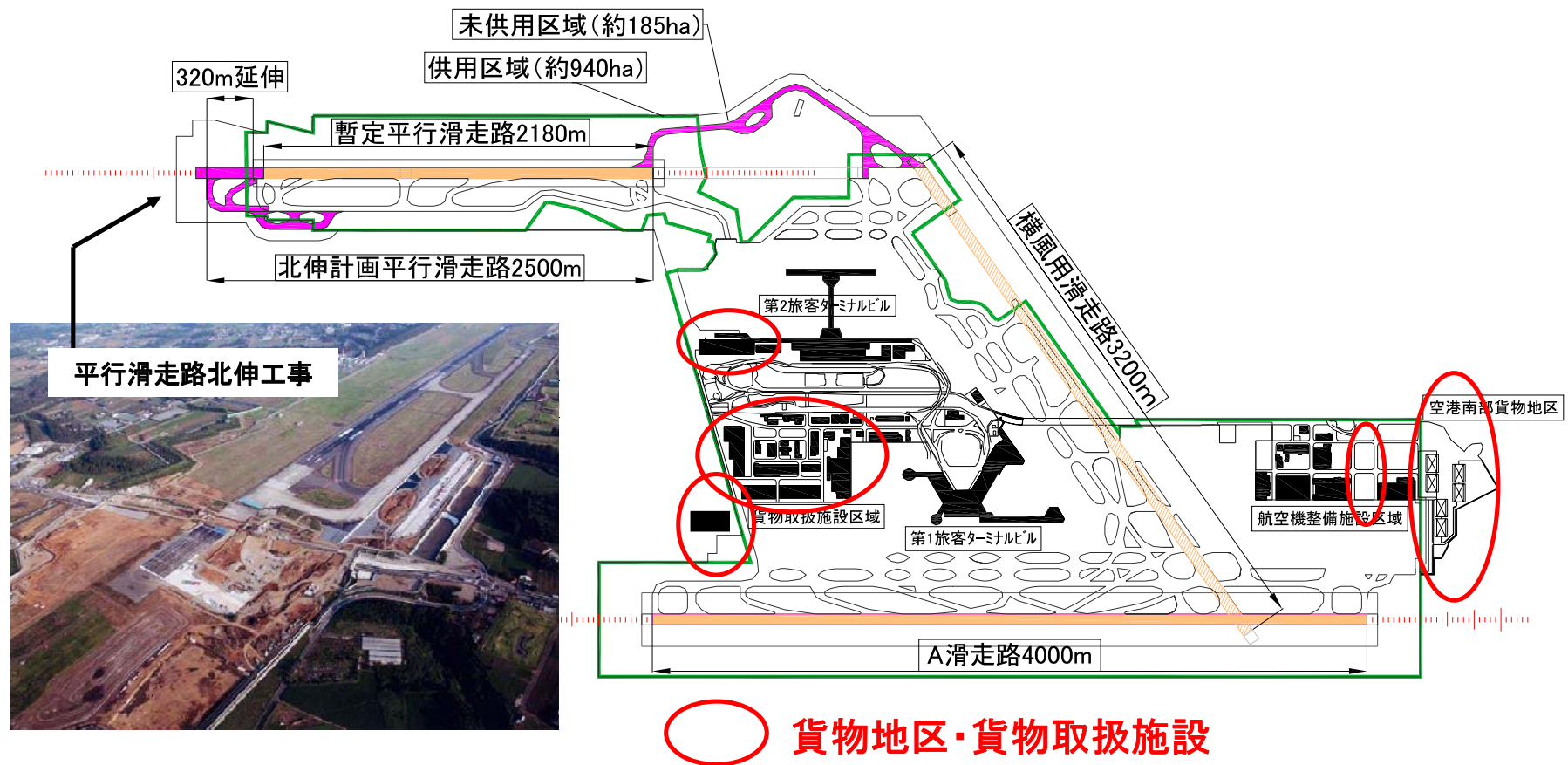
会社の目的及び事業の範囲

(成田国際空港株式会社定款 第2条)

成田国際空港株式会社は、成田国際空港の設置及び管理を効率的に行うこと等により、航空輸送の利用者の利便の向上を図り、もって航空の総合的な発展に資するとともに、我が国の産業、観光等の国際競争力の強化に寄与することを目的として、次の事業を営む。

1. 成田国際空港の設置及び管理。
2. 成田国際空港における航空機の離陸又は着陸の安全を確保するために必要な航空保安施設の設置及び管理。
3. 航空旅客及び航空貨物の取扱施設、航空機給油施設その他の成田国際空港の機能を確保するために必要な施設の建設及び管理。
4. 事務所、店舗その他の成田国際空港を利用する者の利便に資するために成田国際空港の敷地内に建設することが適当であると認められる施設の建設及び管理。
5. 成田国際空港の周辺における航空機の騒音等により生ずる障害を防止し、又はその損失を補償するために行う次に掲げる事業。(各号省略)
6. 前号に掲げるもののほか、成田国際空港の周辺における生活環境の改善に資するために行う次に掲げる事業。(各号省略)
7. 前各号の事業に附帯する事業。
8. 前各号に掲げるもののほか、その目的を達成するために必要な事業。

● ● ● | 成田空港における施設整備の状況



平行滑走路の北伸整備により空港容量が増加(20万回/年→22万回/年)



貨物上屋配置図

(2009年2月現在)



再配置対象上屋(2008年6月～2009年1月実施済)

JAL

5箇所

ANA

3箇所

貨物ターミナル地区 Cargo Terminal Area

IAC

4箇所

エプロン
北連絡通路
GSE Overpass North

第2ゲート
Gate No. 2

第2貨物ビル
Cargo Bldg. No. 2

第2貨物代理店ビル付機庫
Cargo Agent Bldg. No. 2 Annex Bldg.

第2貨物代理店ビル
Cargo Agent Bldg. No. 2

第2貨物代理店ビル付機庫
Cargo Agent Bldg. No. 2 Annex Bldg.

第2貨物代理店ビル
Cargo Agent Bldg. No. 2

第2貨物代理店ビル付機庫
Cargo Agent Bldg. No. 2 Annex Bldg.

第2貨物代理店ビル
Cargo Agent Bldg. No. 2

第2貨物代理店ビル付機庫
Cargo Agent Bldg. No. 2 Annex Bldg.

第2貨物代理店ビル
Cargo Agent Bldg. No. 2

第2貨物代理店ビル付機庫
Cargo Agent Bldg. No. 2 Annex Bldg.

第2貨物代理店ビル
Cargo Agent Bldg. No. 2

第2貨物代理店ビル付機庫
Cargo Agent Bldg. No. 2 Annex Bldg.

第2貨物代理店ビル
Cargo Agent Bldg. No. 2

第2貨物代理店ビル付機庫
Cargo Agent Bldg. No. 2 Annex Bldg.

第5貨物ビル

第2旅客ターミナルビル
Passenger Terminal 2

貨物駐車ビル
Cargo Multistory Car Park Bldg.

貨物管理ビル
Cargo Administration Bldg.

機内道路第2号線
Airport Road No. 2

機内道路第3号線
Airport Road No. 3

機内道路第4号線
Airport Road No. 4

機内道路第5号線
Airport Road No. 5

機内道路第6号線
Airport Road No. 6

機内道路第7号線
Airport Road No. 7

機内道路第8号線
Airport Road No. 8

機内道路第9号線
Airport Road No. 9

機内道路第10号線
Airport Road No. 10

機内道路第11号線
Airport Road No. 11

機内道路第12号線
Airport Road No. 12

機内道路第13号線
Airport Road No. 13

機内道路第14号線
Airport Road No. 14

機内道路第15号線
Airport Road No. 15

機内道路第16号線
Airport Road No. 16

機内道路第17号線
Airport Road No. 17

機内道路第18号線
Airport Road No. 18

機内道路第19号線
Airport Road No. 19

機内道路第20号線
Airport Road No. 20

機内道路第21号線
Airport Road No. 21

機内道路第22号線
Airport Road No. 22

機内道路第23号線
Airport Road No. 23

機内道路第24号線
Airport Road No. 24

UPS
UAL

AAL
AAR

FDX
KAL

CPA
AFR

BAW
NWA

NCA
3箇所

整備地区貨物上屋

Maintenance Area Cargo Warehouses

貨物上屋 A
Cargo Warehouse A
貨物上屋 B
Cargo Warehouse B
貨物上屋 C
Cargo Warehouse C
貨物上屋 D
Cargo Warehouse D
貨物上屋 E
Cargo Warehouse E
貨物上屋 F
Cargo Warehouse F
貨物上屋 G
Cargo Warehouse G

事務棟A
Office Bldg. A

事務棟B
Office Bldg. B

第7貨物ビル

第3貨物ビル

第1貨物代理店ビル
Cargo Agent Bldg. No. 1

官庁会同行会
Governmental Offices Bldg.

成田国際空港郵便局
Narita Int'l Airport Post Office

第2貨物ビル
Cargo Bldg. No. 2

第2貨物代理店ビル付機庫
Cargo Agent Bldg. No. 2 Annex Bldg.

第2貨物代理店ビル
Cargo Agent Bldg. No. 2

第2貨物代理店ビル付機庫
Cargo Agent Bldg. No. 2 Annex Bldg.

第2貨物代理店ビル
Cargo Agent Bldg. No. 2

第2貨物代理店ビル付機庫
Cargo Agent Bldg. No. 2 Annex Bldg.

第2貨物代理店ビル
Cargo Agent Bldg. No. 2

第2貨物代理店ビル付機庫
Cargo Agent Bldg. No. 2 Annex Bldg.

第2貨物代理店ビル
Cargo Agent Bldg. No. 2

第2貨物代理店ビル付機庫
Cargo Agent Bldg. No. 2 Annex Bldg.

第2貨物代理店ビル
Cargo Agent Bldg. No. 2

第2貨物代理店ビル付機庫
Cargo Agent Bldg. No. 2 Annex Bldg.

第2貨物代理店ビル
Cargo Agent Bldg. No. 2

第2貨物代理店ビル付機庫
Cargo Agent Bldg. No. 2 Annex Bldg.

第2貨物代理店ビル
Cargo Agent Bldg. No. 2

第2貨物代理店ビル付機庫
Cargo Agent Bldg. No. 2 Annex Bldg.

第2貨物代理店ビル
Cargo Agent Bldg. No. 2

第2貨物代理店ビル付機庫
Cargo Agent Bldg. No. 2 Annex Bldg.

第2貨物代理店ビル
Cargo Agent Bldg. No. 2

第2貨物代理店ビル付機庫
Cargo Agent Bldg. No. 2 Annex Bldg.

<3>

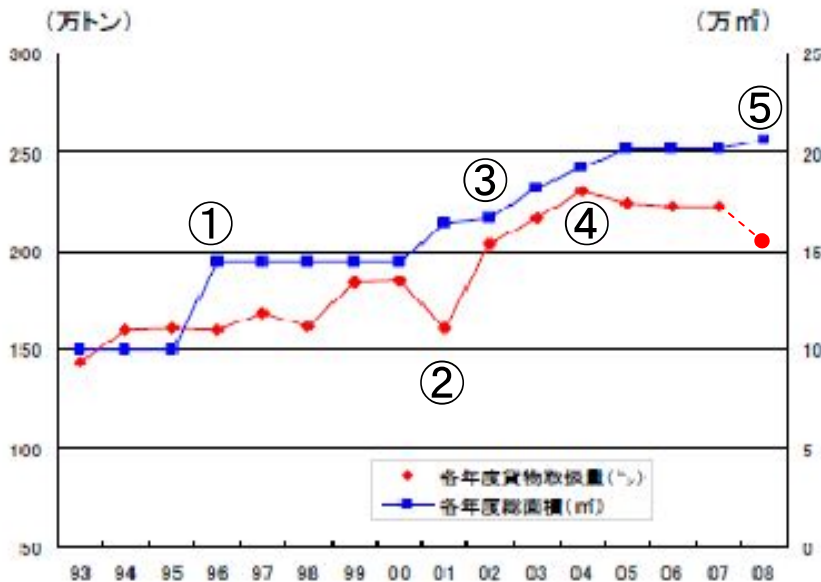
NAA
NARITA AIRPORT

上屋の建設・整備

空港内の貨物上屋は、空港機能施設として、以下のとおり区分される。

- ◆輸出搭載上屋 : 輸出貨物のULDビルドアップ、航空機搭載前計量等の機能
- ◆輸入共同上屋 : 輸入貨物のULDブレイクダウン、仕分、蔵置等の機能
- ◆代理店上屋 : 通関、2次仕分、蔵置等の機能

成田国際空港の貨物取扱量と貨物上屋面積の推移



☆上屋総面積 20.7万㎡

☆年間貨物処理能力 245万トン

①1996年

成田・原木仕分基準の廃止 ↑

第4貨物ビル供用

②2001年

IT不況、米国同時多発テロ ↓

③2002年

暫定平行滑走路供用 ↑

整備・南部貨物地区上屋供用(01~05年)

④2004年

米国西岸湾岸スト ↑(過去最高231万トン)

⑤2008年

第7貨物ビル供用、上屋再配置

世界経済不況による貨物量激減 ↓

⇒ 上屋の返還増加



上屋の割当ての手続き・基準

＜賃貸借対象上屋(機能、用途、立地)＞

1. 輸出搭載上屋(駐機場前面、その他)
2. 輸入共同上屋(駐機場近接、その他)
3. 代理店上屋(保税上屋、その他)

＜上屋賃貸借対象者＞

①航空会社、②上屋会社、③フォワーダー等
規程等: 構内営業規程・要領(申請、承認)
建物貸付要領(申込、貸付決定、契約)

＜上屋賃貸借者の募集方法＞

◆機能、用途、立地による賃貸借対象者の募集

- 上屋新設又は増設
- 駐機場前面上屋の再割当て

◆HP等掲載による公募

- 上屋返還により上記以外で空上屋が発生した場合

＜上屋賃貸借者の選定要素(ヒアリング)＞

貨物取扱量実績、見込(受託航空会社分を含む)
新規就航・増便、輸出入貨物・宅配貨物等用途
トラック搬出入、ドーリー・フォークリフト横持頻度
上屋内設備工事(屋内屋、高層ラック、冷蔵庫等)
ハンドリング(自営・委託)、ULD(コンテナ)置場
事務室必要面積、勤務者数、通勤方法等

＜上屋賃貸借による貨物地区内外への効果＞

- ①上屋狭隘化の解消 ②貨物地区内の運用効率化 ③貨物地区内外の交通混雑緩和

空港周辺のフォワーダー施設

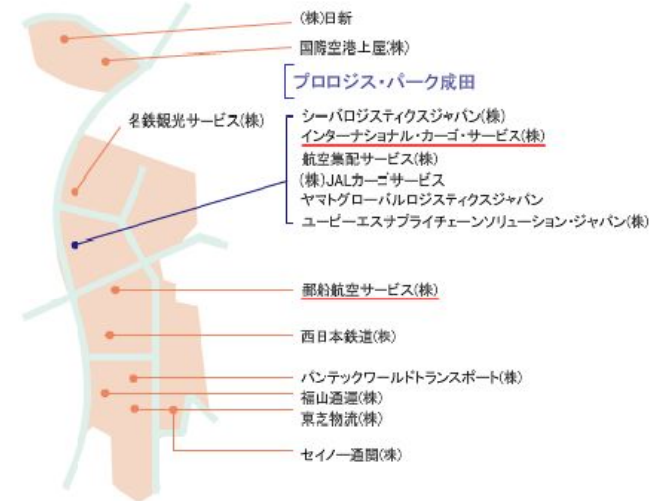


空港周辺においては、フォワーダーによる自社貨物施設、物流専門不動産会社による賃貸施設の建設が相次いでいる。

42社47カ所 (2008年10月現在)

これらの保税蔵置場を含む空港周辺の物流倉庫の総面積は約40万㎡であり、空港内機能の補完的な役割を果たすとともに、地域経済、雇用等に大きく貢献している。

空港南部工業団地





空港内の貨物上屋

輸出上屋(第7貨物ビル)



上屋内部の様子(第7貨物ビル)

